普及活動情勢報告（平成 29 年 11 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

嶺北地域の情報交換会で盛大におもてなし！
～第20回全国農業担い手サミットinこうち　地域交流会～

県外参加者を歓迎

10 月 24 日、土佐町のフォーラム末広で開催された情報交換会は、県外からの参加者 35 人に対し、地元からは 68 人と倍近くの参加者で歓迎し、大いに盛り上がりました。

農家をはじめ、県議会議員、各町村長・議会議長、JA 組合長、県出先機関長でお迎えし、若手から年配者まで、特に女性農業者の参加者を増やすことに配慮し、嶺北地域での最高のおもてなしをすることができました。普及所は地域実行委員会の事務局として、これまでに委員と開催にむけた検討を重ね、準備を進めてきました。

県外からの参加者アンケートによると、「地域の沢山の人たちと交流ができ、大変良かった」「土佐あかうしをはじめ、地元料理がとてもおいしかった」など、有り難い感想ばかりでした。

今月 27 日には地域実行委員会を開催し、地域交流会や収支報告を行い、委員や関係機関のスタッフと労をねぎらう予定です。

本山町農業の多様な魅力を伝えました
～第20回全国農業担い手サミットinこうち　嶺北地域現地研修会（本山町）～

オリジナルユリ品種「ノーブル」を視察する参加者

10 月 25 日に、全国農業担い手サミット参加者のうち 11 人を迎え〝天空の棚田から、世界に一つだけの花「ノーブル」、ふれあいの郷でそば打ち体験〟と題した現地研修会を本山町で開催しました。普及所は本山町と連携し、本山町の農業の案内や現地での説明を行いました。

研修では棚田の原風景を将来につなぐ活動に取り組む「吉延営農組合」、オリジナルユリ品種「ノーブル」を育種・生産している農家、中山間地域の維持・再生にむけ多様な活動をしている「集落活動センター汗見川」、日本一に輝いたブランド米「土佐天空の郷」や地域の農業振興に取り組む「本山町農業公社」を視察しました。

参加者からは、「中山間地域の農業に触れることができた」と好評でした。

農業担い手サミット現地研修会で充実した意見交換
～第20回全国農業担い手サミットinこうち　嶺北地域現地研修会（大豊町）～

JA 柚子加工施設で熱心に研修する参加者

10 月 25 日に、農業担い手サミット現地研修会が大豊町で開催されました。県外から 8 人が参加し、大豊町の有機栽培トマト農家、JA 柚子加工施設、山村農業実践センターで視察研修を行いました。

台風の影響で参加者は減少しましたが、各視察先で参加者から質問だけでなく、中山間地で生き抜く農業を実践するためのアドバイスをいただくなど、意見交換が活発に行われ充実した研修となりました。

普及所では、今回いただいた意見を生かし関係機関と農業振興に取り組んでいきます。

畜産経営とJA出資型法人を核とする中山間農業活性化コースは大好評！
～第20回全国農業担い手サミットinこうち　嶺北地域現地研修会(土佐町･大川村)～

防護服を着て視察する参加者

10 月 25 日、農業担い手サミット地域研修会土佐町・大川村の視察コースでは、中山間農業複合経営拠点の（株）れいほく未来の取組や（株）むらびと本舗・川井畜産の協力により、褐毛・黒毛和牛の牛舎で研修会を行いました。

普及所は、県外参加者 16 人の受入に際して、事前に渡航歴を確認し、受入先との調整や資料作成、バスでの添乗による説明などを行いました。防護服・長靴・手袋・消毒液等の準備から着用の指導まで、中央家畜保健衛生所嶺北支所の全面支援を受け、経営の話を聞くことができました。

参加者からは「畜舎内に入れてもらえるとは思わなかった」「牛を間近に見ることができ、感謝している」など喜びの声が聞かれました。

普及所は、今回の全国農業担い手との情報交換等を機に、更なる農家の経営改善や地域農業の発展に取り組んでいきます。

新たな良食味品種を求めて ～所内で食味試験を実施～

食味試験の様子

10 月 30 日、普及所で職員など 13 人が、水稲の奨励品種決定調査現地試験の食味試験を実施しました。

管内で栽培されている〝ヒノヒカリ〝にこまる〞の他に〝恋の予感〞〝関東 263 号〞を加えた計 4 品種で、6 項目（外観、香り、味、粘り、硬さ、総合）を評価しました。

〝恋の予感〞〝関東 263 号〞ともに、総合では〝ヒノヒカリ〞と同等の評価が得られ、中でも〝恋の予感〞は「粒にツヤがあり非常にキレイだ」という声も聞かれました。

今後、普及所では収量、品質も含めて、総合的に現地での適応性を評価します。

ワンペーパーで簡潔でわかりやすい資料を作成しよう ～職場研修会開催～

きちんと伝えることが出来るかグループで演習

10 月 31 日､ワンペーパーで簡潔にわかりやすく情報を伝えることが出来る資料づくりの習得を目的に、普及所、中央東農業振興センターの職員 18 人が参加し、普及所で職場研修会を開催しました。

人事課からの派遣講師を迎え、「ワンペーパーで作成するには論理的な思考をすることが基本」で「文章の構成を考え、構造化して表現することが大事」であることを学びました。また、28 年度の普及指導活動実績書等を題材にグループで演習も行いました。

職員からは、「主観的ではなく客観的に伝えることの重要性がよくわかった」等の意見がありました。

普及所は今後も職場研修を活用し、普及指導能力の向上を図っていきます。

JA米ナス部会市場販売会議への参加

市場関係者と熱心な協議

11月1日、JA土佐れいほく園芸部米ナス部会員7人は、京都市の京都青果合同株式会社を訪問し、果菜部担当者と米ナスの流通や販売について協議しました。

普及所から、今年の生育状況、天敵スワルスキーカブリダニを使った害虫防除、土壌還元消毒と高接ぎ苗による半身萎凋病対策について説明しました。市場担当者は、産地の取組に感心し、「今後もさらなる生産量の確保をお願いしたい」との意見がありました。

今後、普及所は、生産者と共に市場に信頼される産地づくりに取り組みます。

嶺北産ユズ玉をオランダに輸出

輸出ユズの箱詰作業

11月2日、大豊町大田口のＪＡ出荷場でオランダに輸出するユズ玉の出荷作業が始まりました。

ユズ玉輸出は嶺北産ユズの販売強化戦略の一つとして始まり、今年で4年目になります。今年は管内2戸の農家、約75aの園地で生産されたユズ玉1.2tを輸出することにしています。

出荷作業は検疫官の病害虫検査を受けたユズ玉を殺菌した後、1個1個布で水分を拭き取り規格毎に箱詰します。この日は、ユズ生産者や関係者15人が集まり、300kgのユズ玉を箱詰しました。

普及所は、植物検疫に沿った栽培指導や植物防疫所との調整等を行っており、引き続き支援していくことにしています。

集落営農組織の協業栽培を支援します
～土佐町松木野営農組合での実証ほ収量調査～

サツマイモ収量調査

土佐町の「松木野営農組合」は所得確保を目指し、サツマイモ〝べにはるか〟の栽培と干し芋加工に取り組んでいます。普及所は実証ほを設置し、自家育苗の導入によるコスト低減の検討等を支援しています。

11月6日に土佐町の実証ほの試し掘りを行い、自家育苗及び購入苗の生育や収量の比較調査を行いました。自家育苗の方が1個当たりの芋の重量が小さい傾向でしたが、面積当たりの収量は両区ともほぼ同等でした。

今後は干し芋に適したサツマイモのサイズ及び苗の形状や移植方法等を組合員と検討し、来作に生かしていきます。

土佐町堆肥センターの良質な堆肥を使用した加工用サツマイモ栽培

収穫調査の様子

土佐町溜井では水田転換作物としてサツマイモ〝べにはるか〟を栽培し、干し芋に加工しています。

5月に施用したサツマイモの基肥に、土佐町堆肥センターの良質な堆肥を使用することを提案し、地域資源の循環を実証しました。

11月6日、普及所がサツマイモの収量を調査したところ、堆肥を使用したものは蔓の生育も良好で、慣行の化学肥料と比較して収量に遜色はないことが解りました。

収穫したサツマイモは、貯蔵して糖度が増す12月下旬から加工を開始しますが、実証農家では味の良い干し芋ができると期待しています。

普及所では実証結果を基に、地域資源の有効活用や6次産業化にむけて支援します。

中山間農業複合経営拠点の事業戦略策定に向けてヒアリング

(株)大豊ゆとりファームの
職員にヒアリング

11月8日に大豊町山村農業実践センターで、(株)大豊ゆとりファームの複合経営拠点事業戦略策定支援個別策定ヒアリング・現地確認が実施され、「NPO法人こうち企業支援センター」の経営コンサルタントをはじめ関係者など11人が参加しました。

経営コンサルタントからの決算分析報告の後、(株)大豊ゆとりファームに対して、特に園芸部門の実態についてヒアリングが行われました。経営コンサルタントからは、新たな投資による事業拡大などの提案がありました。普及所からは人材育成の重要性などについてアドバイスしました。

普及所では、毎月の定例会を中心に経営改善を支援し、職員の資質向上などの取組を強化していきます。

商品のブラッシュアップと販路拡大にむけて～6次産業化支援チーム会を開催～

販路拡大にむけて検討中

11月10日に、本山町キムチ生産組合うれっこ3人、アドバイザー1人、普及所2人、地域支援企画員1人が嶺北農業改良普及所で、4回目の6次産業化支援チーム会を開きました。

キムチのラベルの文言見直しや食品表示を修正し、すっきりとしたラベルになりました。グループ員から「内容量を増やして売っていきたい」との要望があり、内容量、単価を見直し、商談にむけた商品づくりが整いました。

今後は、12月に商品規格書等の書類を作成し、来年1月にリストアップした販売先へ商談に行きます。

普及所は、6次産業化支援チームで加工品のブラッシュアップや販路拡大にむけた取組を支援していきます。

本年度の振り返りと次年度の改善に向けて
～「大豊とまと」が現地検討会・定例会を開催～

現地検討会で緑肥や加温機導入等について検討

大豊町の有機栽培トマト農家が中心となって組織する「大豊とまと（構成農家 10 戸）」は、11 月 17 日に大豊町で現地検討会と定例会を実施し、農家 9 戸が参加しました。

現地検討会では、ライムギ等の緑肥栽培や加温機と病害防除コントローラー「まもるん」による作期延長と病害及び裂果対策について検討しました。引き続き実施した定例会では、施肥管理や高温対策について検討した他、農家個々の本年度における反省点や次年度の改善事項などを協議しました。

普及所から課題解決にむけ、改善事項を会員間で情報共有する提案をしたところ、農家からは「現在の収量低下の要因（病害、裂果、落花等）を解決することで増収につなげたい」等の声がありました。

普及所では、組織活動や各農家の安定生産にむけて、引き続き支援していく予定です。

ISOからGAPへ、良い農場管理を目指す

GAP 点検ｼｰﾄを紹介

11 月 20 日、JA 土佐れいほく本所で園芸部役員会が開催され、園芸部役員 8 人、JA 職員 6 人、普及所 6 人が参加して GAP について検討しました。

普及所では国のｶﾞｲﾄﾞﾗｲﾝに準拠した高知県版 GAP に取り組むことを提案し、6 月には勉強会を開催して理解を深めました。また、県内の先行事例を参考にして「JA 土佐れいほく環境･安全･安心 GAP 点検ｼｰﾄ」を作成し、生産者が容易な取組となるように工夫しました。

今後、各品目部会の反省会で点検ｼｰﾄを紹介し、来年 2 月の園芸部総会で承認を得ることになりますが、ISO14001 の実践で培った経験を活かし、GAP へｽﾑｰｽﾞに移行するよう支援します。

次年度にむけ、（株）れいほく未来の足固め

経営状況を確認中

11 月 21 日、(株)れいほく未来、普及所、JA が嶺北農業改良普及所で(株)れいほく未来の今年度計画の進捗状況や今後の支援について話し合いました。

従業員の独立自営就農等により、(株)れいほく未来の労働力が不足してくることから、園芸品目の売上げ増大にむけ新たな従業員の雇用等による労働力の確保が急務の課題となります。そのため、ハローワークの求人広告等による労働力の確保や現状に応じた栽培計画、品目の集約化等を検討していくことになりました。

普及所は、複合経営拠点として地域を守り、稼ぐＪＡ出資型法人(株）れいほく未来の取組を支援していきます。